

Diary
1923
 $\pm \infty + = \frac{1}{4}$

(II)



八月

16.(土)

✓ 森幸史, Somborki, Syrialismus u. Syriae
Bemegung, 観音山地の政治的・社会的・経済的・文化的・道義的
立場, 政治的・社会的・文化的・経済的・社会的問題
叢書一冊, 岩波文庫, 1977年, 木下正之著
林幸史著

佐藤幸次郎著, 井手信也著, 森幸史著
今泉信政著, 宇都宮田 Rudoji 著, 久
今井信之著

17(金)

✓ 11時, 収神火元→森幸史の電報アリ
朝行けり、侍42室前來ル、午後、松田史
松田二人=事)から手重八, 交説、夕十時迄止
行に詰居サル。12月2日, 文部省東京公
通ソーリ吉地方へ、主に車ルハマニカト

18.(日)

前九時半, 収西行, 電報, ニス

八月

✓ 在一時半，吃毒死鬼米川 楠田久為向加川，
 (東坡、新井鶴溪)，新井木子。十月丰作
 月十一日、吉221-3 加川五時，吸散2-
 墓經大史 (alpbeach) 頭頂、次々森人史、佐佐木

19. (火)

午前十時上小島、行
 晚10時帰る
 墓經大史 路の駒込山、木川一分口支那 朝一
 行く(駒込山)

20. (水)

午前九時出町
 ✓ 穿神戸=増傳 (今月21日) 楠田森人二史 100, 大林
 加川久為引立 100, 全 450) 行く後
 ✓ 午後森人史西野 誓神戸) まへ給奉費、江利村
 通音女張 20-5000 費支給 8.20 朝日新聞
 又月10日 墓經大史 200, 今回>行木下
 以後來往毎、誓神女張 (地主同)
 新人史: 亂菊作、行足・瓦器事件) 後、又向

八月

表の宇野史上の林へ会議、飯了達川全2立
 意見>達川

午後五時、吸100支、退所梅田駅へ 9月3日
 七時半分歩 四史、今リ七ツ、東京一帰川、行
 正午行後十時後走来西

21. (木)

午前十時出町
 楠田大林加川久為向四史、増傳進行、午後3
 十一時、吸屋上宇道史来西 大原氏子、久次人
 連立士接支所、上面金、口時決文(444+500)又
 加川楠田久為向(志士)高砂山行)行) 8.20
 時、吸詩西野元 (海川1号、行)

22. (水)

朝早9時起 6.54, 今車へ梅田、市、天、高車へ
 の足橋、行) 8.20 8時20分 楠田久為向加
 川(志士) 8.20 高車尾 橋亭へ 今車、高橋
 高砂山へ行) 8.20 自信効率(行乞一回)、地主
 へ行) 金光敏へ 体験 金底 宜ケ心前、市、

八月

量加減，天候 + 氣溫後，上 \rightarrow 下 \rightarrow 中 \rightarrow 上
量，產生其他以休止、伸展女人烹煮一
身的高燭山，一切高烹煮、蒸 \rightarrow 氣味，
吸 \rightarrow 入喉，以而 \rightarrow 飲 \rightarrow 精進料理味。
+ 離達十二時終夜熟睡。

23. (木)

朝七時起牀 朝食、飯加湯と喫心九時、次
高音便、女ト（一人前五円割込礼又）食後、便
叫氣剝身寺近見物心女人室、女ト兩脚、女ト
被、金十五分前、女ト下山ノ神石、一路
鍵の金冠（復仇体負地共）自働車高電
口 5.46 晴 加川久高向二里、住吉へ下車
掛田東、全人の足搖、女ト脚田の分張、全
人車の運送也。少々大時半、女ト被、山へ
返事、快趣、女ト

八月

24. (金)

被子植物的根系有主根和侧根之分，而禾本科植物的根系是须根系。

25. (\pm)

前人詩文

✓ 韶音入人女夫 = + = 10) 4 又空叫道：「十八
摩訥夫卜女，審燭是 13) 相傳此之又
午荷鐘四七郎東來西組氣殊、商費組合二付
絃子

午後二時半以後支來函：電信アル叔四時
27 待ケルハス未だ一時既入

26 (15)

廿九日，往大神社參拜，並入東、西、南、北
四門，下車，幸及海濱，摸桂枝，觀更、
境濱，行十有刻，休憩於入之海川邊，
是處有千人石、月見石、月見松、御氣之山、
五峰，頃

八月

27.(日)

朝鮮，午後清回

28.(火)

前大時文面

大朝記者民志水引

而日主氣體計載「外國人口論其事」土司清人

而而時近西而毛毛

大至極至二也、七狀、正心森化史四朝欲遠

漢子而發氣元氣、什書節之、与中送、行也
而、近狀、之達、

29.(水)

既以在兵、五十歲上支、海水(器、行)

八月

30.(木)

前大時文面

「人以論、批判下工、清人

而一時漫近西而毛毛

31.(金)

既以在兵、道之

夕墨十世以人、件、神戶三重、行、午辰、

九 用

1. (±)

前九時之四

✓ J.f. N.O. 之 遷文及手稿行書之 typewriting

新故散尺

宣化区统计局

✓ 亂四時吹拂田史來粉毛毛川史沙木也
下坂今ナニ近ニ空レヒ吉ナフ依) 摺田史之
車八ロマリ申、萬乞ナフ乃ニ近事アリナ
吉女共史、近事、桜ナニ所發令、乃
乞ナル。3

2. (10)

朝 7.22. 未申→立秋、行十二本松叶，针草，是
河上草实之分，就该摘离，以取配意之计。
得失，配意之气，近八月气，管水森山，欲退会。
去生之气，又行木行，兼合水门，至十八本
山，吉氏、凶水皆導引計，微意而向，而呈又
亥故生錢也。一者之生，皆因水土相生，上迎
事也。午时四十分计，以待吉

辛卯海市史游，乞求病重一而愈，得不夫人。

九月

二年在神川縣山口町。立御殿上以宣食

公 1.04 篇 1-2 二時四毛又

此の二年間、地震感せし加東車横須
才向へ安政以來、大地震アリ交通施設大
災ト支、被害無観、時於立山寺境内法事
御内安政廿年、天變人異ニ云々、一丁手、丁故
全、誕生日ニモレルニ奇

3 (17)

✓ 東京横濱方面、若狭越後外：甚大「西」、「北」之類
多處至一才，其率過半，前九時多兩才。重申史。
1. 研究上、東京在往者全部：火輪狀、荒遠，以
日下毫末不適，一才若一才四半，可適以毫末
以生計之書面。

珠、大烏丸、安正、中正丸等。

1. 四隻、大波 - フルム、四隻 - → 駆逐艦
→ 捕魚船、敵潜水艦、空母、外洋リーフ キラット

1. 银行的个四川中心余额、会神、余额、空
1月注：通十一、本机、行之以

以上，还是叶二叠层以见毛子
山尖壳的壳中央一脊骨分，前端3中达2-4mm

九月

由ナム本邦の輸出スルカラス
今朝汽車、又人へ、四友山喜豊之助史、古今
ノ内閣、安田洋一
Sembiki. 今朝御次機械欠缺、報小早川

4. (大)

✓ 前・大時本支所 指田大林加川久面商、四史
ト東京農業委員会議会、暫行報入待・以外
トハシ・朝議向) = 議会ト止ム X

大林虎川 Malthus 人論第一版大内農耕報
、實業、既に全報告サル

大時過計所

東京方面、震災後、大災、東京、日暮、等計
他二十万全下大支拂の心換拂の事、中、帝大
經濟統計研究所アーマウナリ 実、過計十五年
左、努力ハ空クシナリ 略忘、心地ス

X 農夫史缺定今、並メタレ所食人ハ勿論アリ
外ハニミ、大臣相臣ニテ報ス

九月

5. (水)

既に左エ 東京農業、手ノ精進 又新規スル

6. (木)

前大時過計所

✓ 改革刊書、既に、川井ナシル

大林虎川仕事(仕事)ア Goven、既元支那
書、翻訳ナシト生ハシタモオ

森川虎一、方木史郎、源蔵入計、吉賀期得ナ
ス、當時、意味ニテナリナセラ云々オカルニト
近シオリ

大時過計所内在ス

7. (金)

前大時過計所

既に階下云氣側、十室、窓ナリ農業及
朝議、乞ナリ階上太田中史、十室、主ノ又、朝議、
高橋、方ニ整理、報ス

ニテ大毎、福田農業史論、東京農業、采

九月

如意見>即九月八日復變，室外單九~十
車輛見解>達八
事務連串，義指，相談乃傳統，5%達八
万九~二十達~才
後四時退兩兩

8.(土)

前九時退兩兩

✓ 善貨今>予，梯田大林四川久向，皆瓦古勞，義
指乞>的傳信，5%，互通數字而比而四月未²
之替九~才 現書更入八書，樣子次八才之
四川東上相傳山公史大改應內壁今>電送之出
而>假不 舊可持四九九九
九二時退兩兩

少食事>支、神下對同地、行半運動，丟失
罕味更才次

九月

9.(日)

午前以車貢史來訪 四九及十世之共、近
大掃除>才八 10月八~10月九
神九是立於四史來訪者六~九九是九九九九
四九是方道突突>達八~九外道突包中近突中
數至平開一九九九九九九九九九九九九九九
口直訪，入江清去即九九九九，三字不取故見斜
革十一ニテ二四>四零一

10.(月)

前九時退兩兩
計刊書證九
午前用島置空四合，每回東西換一才。東立九
避難>九~九九九九九九九九九九九九九九
行元而，階上、室中>乞付
九二時退兩兩

○此四傳中東大平史、高以而今九九九九
平東數口上至可人之而人社，尚欠之
明九~九九九九九九九九九九九九九九
舊在已之司史>無事過量足，毫報君
而平前各史，才之>報不一

九月

九)

$f(x) = -5$

前人詩過文所
刊書堂

- ✓ 大一等川喜気、宇、柳田大林久馬向山川、
猪俣川喜氣川内有二丸、文、和書室入川十加茂
町内移口一門内有史、伴、室井、行、川内有二丸、
喜氣川内八、九、十、

12. (,k)

- 前七時半起 梅田、至八五支未記 8.20. 乍東
立御行、電車立御行=下寺幸町(ニニ星通)
書店=入江一人、押室要入ル。下遇一光、
ナカツ東二寺木、東室、行半宣食休被你
四等通セ動力二等通、歩猶持田内某ニ
支、東室、高山明日香、要入ル。今ハ大
林丸井、7.40²²元の通、扶子十等、吹田
元立御、書店=大の川人カハカナナ

13. (木)

大等處多

- 刊書送付 J.F.N.O. 一九一九年七月五日
高復春川支、(重複) 二二二三
函書送付 2.05.7 附文
横濱中央郵局より本支局へ送付
全く無事小矢、(日本支局にて) 全く無
事一旨(手紙) セル

14 (金)

卷之三

4. 列書選拔

- 九月十一日，项少尔威君来函。小四厚，完僵壞。
但心全未無事。你校修理費，橋，兜風。欲以來攻
好。一月十一日，因、沙即瓦毛之同率九人去。袁公
請之，始，挖田東土，南見人子明。而一月四日
亥立卷。

午后 大原屋 (市内) 桂園山へ帰る
川端家 大原秀樹先生会見 桂園山へ
着地、2L 分り高さナニ? 落付、次第未段ハ一
回由ナリ 丰時向行、少翁考サル 全て四
時未遜所也乞之

九
月

15. (土)

前七時半出走下坡 遊樂山→十日市、兄弟子、
島一翁(之、毛アツル) 塙海岸→浮城→浮城
の歩道

行方書達成

大朝記者來訪 所謂日本地圖人、消息者
諸々

十日市、午後二時、坂出至豊橋、立候り
車、若、向市へ、今月分手引、以後、又向市、
北山北山、森木屋四四四、手引、金額
又、手稿、佐賀二庭、

午二時半返所用事ス

七八九点の金示無事八時報アリ

16. (日)

昨日在毛十日市、庭掃除、午

九
月

17. (月)

前九時退吉西
整理、経事ス
午二時退吉西ス

18. (火)

前九時吉西

✓ 東京方面、尚欠予定金十八、兩隻、派遣支川、
先、一號神舟、該船所有英臣、五支、生火、被送、
史政軍事動向、改吉東、實村才而、即英臣
沒有二支、中一人上、是書、葛車、太上立君、
情報、待、處置支川、ス

經濟銀行、元主即平四万九千、上野道
輔、通社、同計、二十五千、二三、支川

✓ 善友今、今、東京、所費派遣、一件、主次、得
又太政方面、上神社方面、上、高書買入、十五、二十
前、皆、持、向市更田、諸史、沒指、全抵、支川、
貳、内有史、行川、大政方面、大政、行川、
及、主、行川、誠川

行川、望、中、大政、府、處、十、何、議、收、郎、九、行、
特別、便、立、主、一、心、上、行、主、恩、得、江、明、書
之、之、又、望、中、大政、處、許、可、行、次、人、手、稿

九 月

20. (火)

越吉英至二束：用向、大森、猪口又所引
内人社人兄弟一方石田 京、生田の大島史一、次
舞合二束、托ス = 売・ケリ + 一時梅田市
見、豫定ナリ

松田史郎河口史、平野・沖田外人計、口以
特人白井大・計私、久保川・園川・本田源四二束上
共、ナリナヘ同様二十人更替セリ飯田・相模、
船軍軍人東・鬼・懸け行接觸ナシ之處、
大草比引・計私・御ヶ葉・木ノ木

在一所過兩日毛ス

大島秀雄史の金家境失ニテ一ノ内一ノハ
定ムリ山内報アリ安堵ス

19. (水)

午前左毛書物整理ス
✓ 在一所過此日薄中史・立川・生田・三高・猪口内
有史未清行連・生田・猪口・立川・近江近・猪口・社役
上高井・高井・猪口・東岸・經済・郵報局・十二
支拂・二・其他・酒肆・Imperial Restaurant・夕
食・入時兩毛ス

九 月

20. (木)

前九時書物

✓ 昨夜以来、竹引高達松 Lymnophyllum が生え
来・史・底・重複種) 3+3

書冊(計私) 整理ス

今月初 + 半月 + 銀行ツリ) おこし、金庫ト
生手手・是ル金員・壁 + 五月、傳説乞レ
候、ナリス

在二時半退所

21. (金)

午前九時書物

1) 猪口所毛書物整理ス

在一所過足計兩毛

行計講義・草稿) 整理ス

九月

22.(土)

前大時支所

所持書整理

✓ 指図史文地、古史、越古疾原二大(化)遺、叶事、
 地内(元)大内、支所、便りの森下接田一虎(り)、未タ弓
 1通(し)付(付)、朝(あさ)二抄、寺口(てらぐち)古史内接處、
 仲(なか)大改(か)古(こ)修(しゆ)復(ふく)、掛(か)ケル
 佐(さ)時(じ)足(あし)立(たつ)
 11月有(あ)る大(だい)半(はん)一(いっ)日(にち)

23.(日)

事(こと)人(ひと)以(よ)有(あ)れト支(し)、二甲(こう)右(う)馬(ま)下(げ)止
 1朝(あさ)七(しち)時(じ)持(も)きセモリ、七(しち)時(じ)退(しりぞ)ム

全(ぜん)日(にち)上(じやう)支(し)、事(こと)神(じん)、入(いり)江(え)川(がわ)人(ひと)来(く)
 又(また)探(たん)索(さく)史(し)文(ぶん)方(ほう)

此(こ)りの東(ひがし)車(くるま)行(ゆき)方(ほう)へ、通(とお)り、便(びん)通(つう)司(し)付(付)、
 皆(みな)大(だい)面(めん)六(ろく)十(じゆ)見(み)御(ご)狀(じょう)荒(あら)送(そう)

指(し)図(ず)大(だい)十(じゆ)四(よん)け、革(かわ)到(いた)來(る)又(また)古(こ)史(し)、二(に)十(じゆ)
 七(しち)時(じ)中(ちゆう)装(そな)へ森(もり)下(げ)接(せつ)田(たん)一(いっ)虎(こ)、旨(むす)

九月

24.(月)

所(しょ)在(ざい)十(じゆ)世(せい)相(あわ)せ役(わく)方(ほう)、役(わく)革(かわ)、從(じゆ)事(じぎ)

25.(火)

前(まへ)大(だい)時(じ)支(し)

所(しょ)持(も)き書(しょ)整(せい)理(り)

✓ 伝(でん)使(し)、文(ぶん)通(つう)皆(みな)大(だい)事(こと)、傳(でん)使(し)、
 支(し)付(付)、事(こと)事(こと)、支(し)付(付)、事(こと)事(こと)、
 一(いっ)月(げつ)、河(かわ)口(くち)、御(ご)方(ほう)、敷(ひら)克(かつ)及(よし)長(なが)大(だい)
 虎(こ)、現(あら)今(いま)

佐(さ)時(じ)足(あし)立(たつ)、月(げつ)、意(い)い、所(しょ)

指(し)図(ず)大(だい)由(ゆ)有(あ)れ、御(ご)大(だい)改(か)、古(こ)書(しょ)、之(の)上(うえ)
 付(付)、事(こと)、筆(ひがし)

26.(水)

✓ 事(こと)八(はち)時(じ)退(しりぞ)ム有(あ)れ、指(し)図(ず)、書(しょ)、傳(でん)使(し)
 雷(らい)高(たか)以(よ)有(あ)れ、事(こと)通(つう)、事(こと)通(つう)、事(こと)通(つう)
 支(し)、事(こと)又(また)、全(ぜん)日(にち)付(付)、事(こと)通(つう)、事(こと)通(つう)
 高(たか)望(まね)望(まね)、面(めん)付(付)、入(いり)事(こと)通(つう)可(こ)能(のう)、
 気(き)、荒(あら)謹(きん)謹(きん)、得(とく)
 可(こ)能(のう)事(こと)通(つう)、事(こと)通(つう)、事(こと)通(つう)可(こ)能(のう)、
 事(こと)通(つう)

九月

亨沖史令嘗，吳傷土以此日之今口引爲引
使以口之而以口之以口在處，扶費土以處也
之

沒有虎，可燒行街口今口八時，氣車以上
車，莫

允豐嘗解佐用加官所合今口既升上半
太郎史（高坤主時代，同意）河田嗣高史，從
介判持參集約十口四口御高貴相合大合，
置漫伏被口許口全口起請丸，故都合付，
心事傳口一作口互支工心封以口口

在四時退兩酒毛

北太史以佐角調查，執筆口是口=口=中
又口ペレルト口是口以口中口中口酒毛
是口地口北口酒毛

吉口山公史从口口口口口口口口口口口口

27. (木)

前九時吉西

音類子整理入

山公史以竟行口以口沒有史吉荒，口空酒毛
外城信心先，向立也由口史，以口以口，以判
既口，慶口人故山公史以太行，特別高本整聲單

九月

長口太，收才，而知口ナラガラ佐毛口

婦女世界記口方達邊聲輔志未行婦人或茎
口歌=ナカニ口便

✓ 在口等口大島秀峰史未口先口史事口改口向
口，而口ナラナ梅口叶近，鶴肉室口口口口口口
長口被憲程設，ナリ判笠口口口明口ナル口
元口口復口，才針口圓山口特平史口游口史，
大原史口法口用口近口付，心口口立口口
左口手大方針口律八口之口口口口口口口口
口，笑口口口口動口能比口手口，再收口口口口
部判口ナラ明口口文室口佐根口口口口口口
口，午口持口史口史口大口千部口口口再收口
口ヤウ口口文室口掛口佐根口口行口口口
夕食口大島史口李都口口口口口口口口口
口十時退兩酒毛

壁酒李都口口佐毛口此口所毛書口大村口
口音增口口口猶口中連板辛增口，逐事口

28. (金)

前九時吉西

✓ 西毛，龍江也地口整理口而書口一亨增
口口口口口口口口口口口口口口口口口口口口

九月

東中史ト議会 司法省在東、延々
行一等選選取の件を又
元の難局處手
付土本太郎丸、議院方備心至りと申れ

29.(土)

前大時支所

而藏書、整理は

✓ 前大時、坂越高志東京の因故、西尾、動力部
資料、蒐集、記事の状況、人社、社
成田四郎丸、意向、探山、署域、宮入又八告入
大段の出来事、政人、仕向、立派に頼むと申
本、報告され

清川特田の川林久商向、四史文、山名丸
加藤太輔先生、申

委員会の設立が御遺、事以革選と審議
部長制（特田、河口、志久）と申すが之又
小吉（川）、草稿、不得、奉付、其の後、
通じ、報告ス

午前宮島課官吏、現今の同兩大臣、子田有二
東本訪人、某材料：付する地に整備申入

九月

本週以次、米粉3木、
行二等選選取の件を又
元の書類、整理心せし

30.(日)

本日の開店

マルクス経済学批判、日本史論上草文、
易經心、讀、初回
難局處手ス

十

月

1. (月)

前九時半西

- ✓ 西本居宣長書類、整理(大作)又
草文書、札(古書写入)計算、書記事中止へ
後、
午二時半退所用瓦又

2. (火)

前九時半西

- ✓ 玉歌山高橋松枝口元影史未西書見=付依頼
アリ山寺の様、便宜、其ルトス
弊寺材木、件一付森川寺、其心事会に售フ
高書旨類清1分、一起整理前全捲又半局
森川寺、售一オ
小石井(即史生而通俗安井)治病院公一屋又
住、全及持田史(即), 口史の Feuerbach
次来春根寺(近郊)の八一筆想又半局
口史、高加波暨向又
午二時退所神代行リ ロマレス書房へニ
古書3冊、又大正朝日古物見ル付ノ以
前既ト付故里入見合、又ルトス ハセガワ

十

月

1. (月)

- ✓ 領事叶矢作京共丸米沙太主御元室、今此所寄
、共書空贈又、復信。手一函或叶の内桂、又
奇、經院御元室カトヨリ既付書先客、而送之、
叶(在中)書丁猶ヘオカル

+ 仁政院先生、安近向合又外 + 仁政院先生
(先生、奥様)ヨリ送申テ、自古既物の地三毛川行ケ
不即日アリ、御卓一子上甚

3. (水)

- 乞代虎子朝京御先御車ト、トナリニ故朝以
7.42 佐吉莞、以車御一亨、上車又下走實面
御顧徳傳、中西印利西、皆又不既、莞及ナ
リヘモ相成ニ、河上虎子訪、太主御溝中川、太主
御元室、河田嗣郎御史引方、可河浅見トニ、
芳、叶ニ及來、以接ツ乞、因寄、御毛、未
未即江太印史引方(日本主)、御達ハ、細田史八
花田重病ト付ナリヤ、最段、河上丸付
御本、坂、達ヘ、卫十井小石二丸、皆ル付
別、方、馬、川、此岸、中草意、是、ナリ旨、達フ
在十二時既

ソヘ清小寺=故寺、河前、鳥居=
塙居ニ 3.25 既、矣、其時、既付瓦又

+

月

4. (木)

前九時文面

圖上志東所種地交換了事

此の成田郷太郎の電報アリに手書のサル金
食以ナシ。以上未納外賃工事ナリ。約二ヶ月至る
得ルナリ。未付借入金ナリ。ナシ。結果
森川村主道所ニモ黒崎支地支度ナリ。又實入
ナリ。未八月方の揮心ナリ。現実ニ心配スル
仕事ナシ。荷臺一箇。使用スルナリ。仕事料
以報取スルナリ。旅費小支金(西23)2872ト
ナシ。同氏人明日用事。皆
後四時半退所用事

+

月

六二時半退所用事

午後及十時3件(散漫行)

6. (土)

前九時文面 書類整理 大作業

J.J. A.O. 手帳の封筒書抽支
略口文書、複書、底紙) 一批。森川村
依頼文書の提出ナシ

宜会後即ち支友人付手土、内外文收
仕事請取作役、而今所、文收物元知人、
文收物の丁流手門事無

后一時半退所用事

ノ動路處所

5. (金)

前九時文面

書類整理

5時15分高書、高一良換更地ナリナリ

略

九月分支農地木 穀神社寺ノ支農食數=行
書庫増塗費請求状一式=付。川内平野高ナム
支農支農元里、高ナム支農元里ナム

7. (日)

午前森山一郎ト共=行手、拂門手

午前まつ。學校・鹿島・等森山一行、午前午後
一部作業車事、午前不=行、港十城十津原、神戸
港行(レバ)午後八時用事

十月

8.(月)

前九時半書面

森川史：器本仰叶，京，大佐又天王寺井，弓二
十二日，示/告入ル、サ-墨，次々又，即高見友，
高木政延人等，以八桂田大介等へ三月一旨伝又
器八、丁亥，即史即森川史：未狀，アリ事正手稿一
入心事十人西桂田人等退又，即申立サル，高見
，重複御志士不立方十人更=精ニシテ四ノハヤウ
賴ル

与云大晦地始末太林家比較対応事件一付
感想>即カ一ケル達一付

合款行，署書：月半通又

失作史、虫狀、是即事行，同件。付ヲハ精ハ
以便立計ツル、努力又，中道中心達一
往ニ時退退所用毛又

9.(火)

前九時半書面

中而次帝東所處世，彦野一付相談サル，年八才
一之今加草棒峰，即人ト達一，即向不可+ル+スニ
即引車大大主，外+ル+スニ+スニ，自方即又立ハ即向

十月

即大内至古史元一大内史，通ニ森川順治事史、佐佐
川、マウラ正にオ

英原久熙史，即八五の内役，今金病矣，外有即
始+ト史即上草中，行動了報告ル

后一時要矣今即ノ特因火事向太林，即史
即第，諸般，報告+ト，他ノ難候ニ二時半故
今

森川史：成田町人，即，示/告入ル，送之才
森川史、都氣付下役サル+ト，即中道人東車
方面，大吉萬集，近八今会役物傳，上=スヘ
局+ト之記にオ，即森川史、即口稿，即中道人
北城史、即都氣付サル+ト，下役九一トマウ中道人
即四時退退，神人ロマレ書房、行十十九大
書入一又大朝二十又向行，一分，運賃向，持
+ト百三十円，書入ハ，次之即行又

10.(水)

即即行在室既路，午又，寒天又，少方，即墨入雨
卷大吉立口又，字，川一又

十一月

11. (木)

前九時半頃

向西大車、元田荷工史來訪、時人以計、要汎
林村、手し中敷田了貸す

向西尾本漢史來訪、山名史、文一會後又
大原峰二郎史、宍島作次郎史、其、本所書吏、防
大設修計、証印足らず、21-21.+1、船賃二十分
計、以解之

大島秀姫史來訪、大原峰一會後、船軍復變、
相談成「心之底」、証込及心レーパ(證込)一分
手再渡入、手署繕入、手方寺地の
手付、船心屋、立場内外支收金社、現今一
手の内、今夕東車、丙、一重チニ二十口
手交、是

東車の成田氏方、乙上太田及賊人之火失
所今夕、丙、一門明日傍晝、紙示、御心
若仕事分人満堂上、宣下ス

午立時退所因毛ス

十一月

12. (金)

前十時半頃

高橋分款、再換入

卡庭寺村大一堺町又經酒幸助于原元田車二
鹿来西

大坂塙洋蔵、大阪丸野介、社取玉川、松宮
船借事件、是ニ船屋之人トシ、同日午後二十分
中止、実情、ナリトム山名史、近ニ二十人車都
二行カツル所、化、房間、船内留、薩摩史及
手井虎、來所、ヒカハラ種起、弓筋者、生計
費、叶意次、ナリ

午二時半、坂寺村大元田二束、丙、丙
食事、支心震災候、中心、船賃又入時長谷
田丸八百吉、寺村大、一門

13. (土)

朝八時半、寺村大、支心、船内以向東
十方、十時半、坂塙洋蔵、行才二号、行延、行
十一時、坂寺村大、山田村十作事件、船大心
全、船屋事件、丁一一、在、一時半、過キタリ
立候、以船屋、船軍、十作事件、亦計、八

十一月

全詔トカニ以テ實地欲望、全詔端壁の支事、
全詔ト之支事セトスル、生牛大宰監、御
城ノ又ノ御收入ニ在ル、ツトヨリテ、税莫叶故
ニ、支事ニ二十方向肆達、キ獲人ツリ、雙向、
一十卷、追送、支事、内臣也、四時、吹ツリ

14. (10)

此日左近執務、整理、官地太田吉田重良史、
ハ、手帳、退く

夕八時横濱、中越賃去史來訪、笑談、碗心
一升ガル

15. (11)

吉川朝恩院文貢、以御傳局、行ナリタメ九時而
起、十時半退、吉川

格田史ツリム文書、張ナリ付、手帳、手札、數
口前大島史ト清長、將軍カキタ大島史ツリム文書、
傳ハリオリサヘリナリ、之レ、復明シツク

格田史ツリム大島史ト付、未西ノム

十一月

辰一時奉發乞、司、持田久西向、持田加川大林
主史之帶、民毛川史森人史明源口東西、管十八
森下史欲追乞、算ナリ、乞乞、付相達ス二十日
辰之時今橋キラニ、アリ今ト決心、通知、大平
柳平河田町上丰田町、若此、外嘗候史
大内史、支事トス北根丸、今後、下役サヘル
飯中心ガル

ハ、ツリ、持田史本、葛生サヘル資料、付ナリ史
、該事ナリ

十日未正午退東所、資料(如書)、葛生、自分
、仕セテ、ナキ旨、往門、左、民毛川史、意見、
持イシモ若ニ董生、旨、一近日、奉貴乞、ア
御賈入方、ナキ、桂之、大政軍の史、法ス
、ナキ、旨、向、吉川酒屋ガル、由

、桂寺跡、一此の東仕事、風景トヘル由、吉川製本
、付故キ付相達ス

、吉川史ツリ内外書版局、社かの人社復興、付
、一筋、力、瘦ス、ナキ、法アリ、由、元ハ、大島史西
、以下役、ナキ、其乞、造ハ、ナキスヘ、トス

辰四時半退所、内毛ス
、中越氏、今朝、起寺、明日改御、賣ケル、毛瓦ナ

十 月

16.(木)

前九時書面

✓奉公史切朝了找比今台佐机的太主柳平河田可
上本四十分，始代行、山火大内峰峻，而后史、火又
正大内史峰峻史、別一裁、書下後，便加
製本、火之書物、付九人、空八、十注意、かく
後正時半退所、觀音、王宇，後再史等、寺井史
夫人、千葉一義、紀、次前上、送、山
高知御産革主事半行、神下正經史、現今の備
演、代報、川野八人

17.(水)

前九時書面

秋晴、上天火午五十分、人、件、石室川以
方、一吉松、散策了

十 月

18.(木)

前九時書面

就筋筋手筋

✓前一時温、叶口上海九、海七、未八、九、見在
川多吹市奉人、ノ、男二史末西、一等向計、窓、尖狭
叶、二十口半一等、吹、再、考、内、平、名川史行、
奉人史、而、音、向、空

食敷農業行、有元英夫森木行、十作制
度史、研毛上、所、利、用、望、ル、全八、未春、閑、光
重、同、空、以、書、半、一、支、便、立、ト、ベ、ル、ス

持田史、上、省、德、叶、十、次、史、叶、十、正、五、会、

後正時半退所、筋手筋

+15、吐氣先生及夫人、及、足、備、一、史、二、名
被吸廢、火燒死、局、道、一、史、夫人、ノ、ナ、セ、リ、
通知、叶、口、情、一、世、一、裁、書、シ、節、同、道、高
尊、三、星、人

19.(金)

前九時書面

書類、整理、既入

後有虎、振、整、近、既、入、退、心、而、内、久、義、

十月

他にナニモ要領オカタキ有らず 南桂田史二
説ヒテ動ク費2トス

✓桂田史一増傳、過駆、既計3先リ立川史二
既計、既、先リ年譜ヲ求ム 又立川史モ一先リ
朱鉄吉甚平沒有工事高砂、礼、既、既カ
リ高々ニ活ニシテ

宮浦史一桂田史ハ今月27日立川會社へ
報告ケ又桂田史モ、桂田史モ一先リト
既リ桂田史三十二回、由リム一ノ一四往、支
費シテ次瓦；一ツタク往ニ資、2トス

宝西大主、元田史未行是日賃ヒル書冊
夕送付サル

佐工時退所ノヨリ神九、行ナリ而其取
錢法シテ遠近、既錢也皆、又大丸屋、ノリ
セアリ、既歸ニ所至入

20. (土)

佐工時支所

大内峰峻二史ハ今ノ出港、竟報來ル

桂田史ハ「ソレハト、予外大震災ト共施設
是行、早、次瓦ル全ノ立川、初リナリル研究

十月

工輸に偉勳

下方面の貿易業者公会の宣
傳用紙

本紙は、貿易業者公会の宣傳用紙で、桂田
史の功績を記載したものです。



桂田史、立川市長、立川市議会議員、立川市議会議員

桂田史の功績を記載した宣傳用紙

桂田史の功績を記載した宣傳用紙

桂田史の功績を記載した宣傳用紙

桂田史の功績を記載した宣傳用紙

桂田史の功績を記載した宣傳用紙

桂田史の功績を記載した宣傳用紙

1. No. 1 ハニチスラ トムヘト、立川史

之ノハニテ提携スルトス

寺田中、立川市高志買入費一万
十美金、文函

立川市高志買入費一万、文函
收付、立川市高志、立川市高志、立川市高志

立川市高志、立川市高志、立川市高志

十月

他ノトベニモ要所ノカタキ高達又高達田史ニ元
話シテ勅付賃ヲトス

✓ 指田史一増俸，過販，販計，告外正田史ニ元
販計，販，告外正解ヲ求ム 又田史モ一足ノ
半錢吉賀至沒有工農高達，私，販ノ置加
リト高達ニテ

高達史一指田史ノ今月四日五十四曾加八
指告外又指吉賀史モ，指田史モ一乞少ナリ
九月三日，由十人一目一四倍，宣
費ヲ次瓦；一ナマウ法ニ賃，トス

高西大主，元田史未行，是日策ニル書冊
ヲ送付サル

伝工時過所ノ一ノ神ノ、行ナリ付銀
錢法ノ、遠近ノ限ノ錢ヲ背，又大和屋ノ所ハ
ツヤク、銀ノ所瓦入

20. (土)

高西時高所

大内峰山史二史ノ今ノ出港，竟報來心

指田史ニテ、別ノレヒト，另外大豐笑卜其施設
是行，望，次瓦ノ全ノ田史，初ナキリル研究

十月

計費料數量，No.1トニテスラ高川へテ立ヒテ
一高川，協議會：提議外トス

森人史ニ帶獨中、說ノル高達買入賃一万
円，收支計量書，交ル

午前太原屋エ高川來函書達，大發行商，收
正田史ナリ高川所取セリト、21.11.15.送アリ 指
田史，齊天寶利達，手ル一齊天宝

午前四時，協議會，司，高川指田指官
森人高川大林久石向，諸君才第
請演會，某月五日，司，21.11.15.送アリ
之處，草達サル 高工時立ヘリ Prof. Ledermann
大内史ニ依託ズル

新設第二号，十一月十五日，高川指田，十一月二十
日，高川，指田，高川指田，高川指田
新設第一号，更地，高川指田事務，行商，高
指田史，七日トス

新設第一號，寄贈部數，三部ナニ五部
ナリ，寄贈人ナリセ，江上人叶長一先生

東京方面，大書墨入，付ハ全ノ十次，希望物
ナリ，高川史，申文ニテ送，說來，高川高川史，高川
史ナリ，先，試算表，時期ノ限ノ間ノ間ノ間ノ間ノ間
二報，21.11.21.正前，11.11.11.用銀川内庫高川，道根セリ
21.11.21.高工時立，高川指田，高川指田，相模川

+

19

次年秋刊書中號乙，即人既：毒尸素+玄地丸、烏
丸二味丸由十山之，單次2-2 莫傷書人差考之，
善：之立之2-2-2

大農率部竹內福二處叫佐米，西重復書壤
波，以人重支財已，便立瓦什。

故田史の提案、大蔵省上級施設は銀行本部に組合
此等の資料を算定(年利10%+年費2%)で算
定する上に、No.1+2+3+此ノル、而も算入を
田史大蔵本部に組合

太政大臣・内閣總理大臣・太政大臣・東京市長
内閣總理大臣

八月今橋モル二行、半弓始、大原市原十
河先生川森仁太内峰俊彦 挑田大珠加山
久五郎、室冲幸川越吉菴草没林内桂山名、
十九世、左之助二十名盛弓竹全一足、年令、
弓上之令合、月日、走入印前評議會へ、感謝森
仁太内峰俊彦之先、由朝歎定、川越吉菴之
史、荒井慰田、品書整理古書蒐集、慰田、荒井
宣村蒐集車軒所蔵書目、弓、53.2.24、走入以
虎事、利、御清九時退散会

大書豪華1件3500円

長谷川史一・木下一義・森戸峰俊・史一・河内一義 = 大内堀

十

四

四二束一此物施舍女=高士人

重複書=付+大字一箇段に可+て=、>送+て

21. (10)

午丙申土冲亥、丙午坐乾用，无耗次又变加，
十之丙午冲。

金邊一時、吃太内^ノ嘗^シ度ニ虎木^ヲ、^ハ飛^ハモ^リシルト
ナリ^ト御理^ヲ生^ヒ以^テ就^セ候^ス。太内忠^トハ中西東^ヲ
サム^シ往^スセ^リ、向^カ入^ル荒^野アリハセ^リ。嘗^シ度^ノ
則^ハ食^取、か^シ一^ノ墨^書整理^シ、^ハ勿^レ御^幸奉^ル事^{アリ}。
行^方指^草、ナリハ^志在^シアリ。今^ハ全^力、アヘ民^ノ生^スト
シ^ス。二^忠ハ四^時過^前以^テシ^ト。

22.(月)

詩九時也

→ 東京、大阪等々実施され車上事務室設立に成功

宮中史：奉手書：計策書：變心：又言地久：奉手

十月

五月廿二日午後九時半到達八千山口
 千石水谷長二郎丸東西車一頭依先付上空，高橋
 又 Marx, Randglossen zum Joshua Program'
 動機ハルスルガムヘタクダニテ銀行依頼リ 指田史ト相談ス
 ベリ告ヘオ
 九時半退院

23. (木)

前九時半

西雨林書，重複調：廿六日一書請購ベキニ，中
 西貿易，之ハ又ハ降リ付ルタム。吉田指田史其他
 →其旨記入スル。

1922年方位以東，改未刊刊書，英佛方八九
 美：主文スルカ、心月吹了森川史、漫不

指田史ト十次史、廿、付十張ニ合ツ。未月以來毎月
 月石同、報酬ノレアラ。古書蒐集：洋書賃、之ハ十
 部、此史、結果、依リ更：森川史小相談スルカ、
 水谷史、Marx, Randglossen 請購ハルシテ、トニテ收
 ナハリトニ。其旨水谷史へ通報スルカ；

Marx 質問論、二十四頁、紙種書用：御申算ニ及
 て、而今被取付付向史の相談則要謹付旨

十月

指田史明朝之極、矢無ヘヨ。帰京サル。咖啡及
 咖啡、送一
 五時半退院

24. (水)

既往生敷、購入、花旗、蝦子、其他掃除
 之ハ又ハ十支、復购、トス等、荷物
 大事所取立、持出、書物ナウード端ナキ持
 之ハ大功ナ立テルハ善、致日向自転車、之ハ
 大怪我ナセバナムナム、足有脚、足無乞、獨
 行走ス

25. (木)

前九時半

Mathes 人ニ論、大内史翻訳、見略
 前十一時、项東洋經済科教、高橋島史未分種
 類法、主ニ又石原、並東未分、宣伝、其一二回之
 乃辞去ナル
 在橋寺洋治印史未分

十一月

神戸高橋、先生来訪講演、依頼アリ 行き由・駅用
 来す一月十日叶云アリス
 高橋先生四郎史来訪
 伝の時遅御用事アリ

26.(金)

前大時吉西
 小太史、其狀 man 2-4個候地圖ハ「ル」ハ「ト」状
 軽い「兄長」旨申送ル
 ✓ 長石川史、中井、佐々東京方面、大書買入
 依頼大個、翌日アリ東史、致五五七十一十二月二
 朔向、東京、此上書、空室入、此承史、此承二
 月半ち万円上りテ申送、申送、十次史、送ルリヤウ申
 送ル
 十次史、大庫、高橋、前事長元川史の申込件
 旨申セヨ

Melthos、草文ト大内史御次下、先哭シ、才一章
 3章

製本、ヤムヘト書物次記、付

伝の時遅御用事アリ

十一月

27.(土)

✓ 午前 神戸ロマニス書房、行ナ士高芸子、運搬、次
 三窓司、西村高生、U.S.A. 豪務省年報、等、贈上用紙
 午後二時、坂井田史来見、高橋上野造舗來、請一時
 、金次来訪、報アリ坂井田史士比、西今、希望アリナレハナ
 上野史、未八時、河上史川見、此上野主田二支
 > 善托トスル+ハ、自分ハ委員上ルヘニ、ナシテフジテ
 趣ク、高ル delicate、向歴ナハ、皆愛叶コト、ア
 上野史、待テ向ハ西、舟便氏 大内久弓司加リ、中
 年城、高橋之史、河上史、全早、待テ安ヒ通シ御、
 申送、乞

上野史ハ、二時坂井史、森下史猪、未、大内久弓
 司加リ、次ニ五時、坂井史、会セシ七人皆生ヒ
 有、高橋買入、空ル上野史、、立意ナ、卒サ
 史獨レ、柄川二子、持走院、草ル、徒歴、久ニ
 挑、欲狂時、平ノル、丸ノル、八時送、一同辞去
 ナル

28.(日)

朝十時左近神戸へ行ナ接久九、1時、上野
 史、先送、四史、宇治大史、往行ナ知ル

十一月

四心次選、二木ノ内侍・森代史・御内侍候史、現今
状、後之の内侍、今ノ内侍、若又大内史、
明朝ノ内侍、由
ルノ内侍候史、書狀+下記

29.(月)

前入等書面

ルノ内侍候史二章、手記

✓ 森ノ内侍相達レ計候ニ端北(別)一室

計、室ノ内侍

内藤某ノ心ノ高(私)ノ算中主婦入、元々
道根也

午後二時、次矢作某代史來、一叶の來事
四農令總会、内侍立候、末ノ外ノ内侍食候、御
令長、再任、事情請、御他二種、一叶の内侍
隆太郎代史見廻處次印吏内侍
來西宮神防大塔、叶相達、叶掌高上
所元ノ内侍、章ノ暖防役候、手記ノ内侍
矢作某ノ用事、御会、叶請、御中、御考、
太郎代之向御請、御考

四時半足可御免ス

十一月

30.(火)

前入等書面

矢作史、幸都中御印御而此委任心附り也(句)ハ
約束ス

ルノ内侍候史二章、手記、手記

左件而次郎史未訪身上、件ニ付大内史相達心
計ルトス様アリ

山内史、友人河野家史未訪大朝、罷トスル由
ハ生矣幸枝、行ノ心掛、ハヤラハス

左四時半足可御免ス

31.(水)

朝矢作史、寛報、今ノ幸都、行ノ止ル不更
ト申心道ル

始ノ左毛湯候、相間候、手洗、松付十枚、
復宿工事ス

十一日

1. (木)

前大島支所

ルナス第2章>達

正書用録>換社>大島支所>正書>支所>而
計八件+合計十九

大島支所來訪者皆物、被實程度詳明
二月下收付計案、整理中+合證件由外皆收
、伊達氏領行

而四時前・退廻行在

ルナス第2章>換社>達

2. (金)

前大島支所

正書用録>換社>東大島支所:達、ラニル
正書用録>換社>東大島支所:達、ラニル
正書用録>換社>東大島支所:達、ラニル

新刊稿書、用録>換社>東大島支所:支所
過日、委員会の森下支、依頼され新刊書置入
事務営業課>草議件²、前掲用録、書冊
正書用録>達、注意以置入>件²、新刊
手稿>送前通件²、合本²、合>達件²、上野

十一日

大島改付品書置入、ルナス第2章>達
達

ルナス第2章>換社

Saether, die Stellung der Syriakischen zu Melch.
Bewilligungen >達>初
而四時前・退廻行在
ルナス第2章>換社>達

3. (土)

前大島支所

ルナス第2章>達>初又 Saether>ケニ>達
正書用録>換社>伊達三郎支所>換>欲ル支所
達ル書類及個人社復要付ナニ>実体的、達
達ル書類及個人社復要付ナニ>成立の革現狀>達
書類及個人社復要付ナニ>上ノルヘ²トナリテ元々主體
大島支所>達>合>合>合>空氣²其=2
丁度大島支所
是>大島支所>書類部取引、附部>通口以次、其
手稿>新刊書>書類支所:換²、換²、二千円²
所、換²、外²、2000円²。而大島支所>換²
一付合、換益見積換²人一些種融通>所²

+ - 11

吉野郡・大内村・大内山(大内山)、大内村、大内
大内(大内)、又ハーハーが No.1 (一日吉野・大内)
大内三吉史執筆)大内山

伊達市大島町打吹ケ原 佐々木一也、佐
東大島町北条處子、24、11月11日撮影

持田吏の此の可否審査：而今過日長安川史
：往々以一件一付相送アリ人故の人、意見トシハ
向ふ上吏一切、大抵人何時トシテ欲速スル事地ハ
不可ト速リ人所送ルル 駕使、驅車等、付シ人
の人トシ河立吏、即ち「援助」乞フに云ひ合、
太監御遣捉拂、拂第公ム一部、皆收拂人知悉
川之文章、ナニセラ一方立川ムハト送ニ乞フ

四月二十四日晴暖風微

草苑)嘗史印，東坡，知人以印，祖文時印中
異師範憲章印，僕，宣東宏光變安政樞
方正謙漢印，行，大時(東坡、四處、心)

4. (10)

朝草薙史行不左夫人之步是而後
人辛酉一夏則其苦情遠到外城中坐心
境均凡一夕一夕千萬賴付

+ - 月

喜之于世，人情所向，不以是、不以卦，全以卦分，
没有贞悔失，即力，以定，得失一，以小人，以益，以益，以益，
和无往利，清口。

5. (四)

天氣晴朗，早上立午朝。7.20，火車以明石至川
崎半島，入時半幅，無以接駁客室。坐八人而
每二半，即坐四十分左右。費也。10地，故年又割八
見火計七十。7.21十一時半，無以明石、西九十九
所貨二十至。神崎電氣屋、金屋、八千
毫車以高砂町口下行，海濱十高砂神社，即生
物也。見 廉室、土車、竹子、木、毫車、木、
神社、竹屋、被、火、日本

6. (15)

朝人詩文

二十九

森川史：『當時高書友、李亨跟，乃旨豫先之。』
注：又古本，避叔子

十一月

十一月前退時 仁川、京畿道立井、門司
大正酒類商事有限公司 Süssmilch (横文在)
而書矣、在、
4.4.6. 京畿道立井、京畿道立井
4.4.6. 京畿道立井、京畿道立井

7. (水)

Saether > 漢文

仁川退勤時萬葉: 北川訓導 3月 1年
四月以後一部入京、火速、
複数
設立人、故入京二釋心事 + 仁川書面提
交オルエイ、
仁川書面

萬葉の御見方 = 仁川書面訓導 3月 1年
仁川書面付意見、未だ、同中央皆事希望の為成
踏玉歸國是此止付タロタ旨達引(依)後第29
參校、方々河川會社リナリナ、更、意味、
意物、付旨達中付達事

仁川草薙丸、立寄、其次才、又後場掛、貨
物、最初、經緯3種、
仁川、年月、希望の為
付旨達ナリ、付依牛、用毛ス

河上草薙丸、云長 Süssmilch (横文付依毛ス
小林漢利東一書文、小、大、年月、增加、高閣

十一月

錄、送付他地、付旨力付、今回、要當以耗給付
仕事ナリタ迄、向來以、宣傳の白壁庵、リル旨、
岸=近、乞力、
佐竹健造史、虫樂、兄科、道ノ兄弟、詩、達
大内三吉、史、火災、ハーフト本ケ一月、航行船之
方、執筆、乞、今日本ニ、至福運は、(在中)ス
並退日、ハ、婦人婦松浦、吉良、付、失念
山故、(印度 10% + 仁川 大林東一、
呈21-4)、正口山付、仁川、大島史の書面、
川島中、道

8. (木)

前大寺多西

✓ 製本、ナル易書、兄、

未了付、注文(丸夏)、郵便、付、(注文)、是也
シニストス

仁川等退勤時毛ス

十一月

9. (金)

前九時去所

✓ 製本二十九号書見入

市立文庫 Archiv von Grünberg 1822 X. Jg. Heft 2 以降
三之文以降

前一時過退所用

Sachbearbeitung

前各回の書類を返却し、次回取扱いに付

+)

10. (土)

前九時去所

成田四郎史東京到來而返日勞工二人以代
二名、遣心使と申す事は、亦實不相費詮に
製本代、大半=244円55銭、賃價=一割増上242.2
+税金又

宣尼以退所 二封=立書、印紙一張+所定又

十一月

11. (日)

追加亮りナリハ今口及所持スルヲ書ニ亮向
及之等向へ付ナリ

前二時過示セバ神戸而其地、先づ(御見度
御難)ハリ、即ち書類一通、手用勘合、剣、刀、火

12. (月)

前九時半去所

✓ 案内史今朝東京到來而書類資料蒐集一付其
以、摸擬付ナリ

内原史大臣に所持書中「西」+「進士」
マハアラニセ

前五時半今橋ナリ=モカーナーイ、支那下井
安史、亮笑感想表3寸、九時前書き用毛又

光船 Benive、國學分動局、Bellamy 史の失業
防止策上に引道貨、調節、是ニ調査、而力、乞
半ノ事情3連3封ノハ

Kiel' Institut für Weltwirtschaft Goldschmidt
史の海文、寧焉、光船申請ナリ之封ノハ

✓ 河上史の Süssmilch、大畠農政の傳
入一道付ナリ

十一月

13. (火)

元入時事方略

ルルサスレ達人

✓ 元一時事報告、施田様田久為向大林四郎、
諸事方略

十次書士吉基事達人報告

出候御指意、程望 大内党中央執事佐治報告
の林先川久の事實入書役宣至御、元、置
采、有無子生、亮朝、此心奉下史、玄門、伊
也川院里、報告心要康心、決心、世局狀、
史、亮朝、ルルサスレ

社社工時事故合

元工時事退所用毛久

北山史の復元(源)、上御可作在支
口付事、可見、四合九八年八月十一日
返事人

14. (水)

北山史在支大工仕事行久

午後度量、擇取民母童又姓伊集乃

大工時事施田大林、二九、九月、度々、木元不拘

十一月

夏、手料理、度心欲達人時事方略考

15. (木)

元入時事方略

✓ 大内党中央入其心ルルサスレ執事佐治書送
ルルサスレ内本党中央御子久と八月十四
連付人

河上第史の平御大車八支令、謹讀叶少輔アキ
来春四月、貢+三ケノ御令付于董八旨+十返事人
料本印平史來行明朝、來付、乃心語子十
ルルサスレ達人

元工時事退所用毛久

16. (金)

九月十五日

朝七時料本印平史來行東室復興、其他、而
欲叶二時宿計、意見、御子久
神戸、入江おにせさん、史、母、子田口おにせさん
安、米行、台食、支、下、御達人、内セ、第四九

+ - 1)

- 田口恭一郎、日下経文仲翁の歴史課、方
舟駆、由十郎、時、佐野一郎
- 林重夫大人（妻）の歴史資料、元々、到着
- Schiff夫人（妻）の歴史資料、元々、到着
- Prof. Willmarth（妻）久留米市商工局
企画課に司る歴史資料、Archiv des Internationale
Gewerbeschaffenden、保存、四月一日支那銀行
中心ビル
- Wulf先生（妻）Industrial Democracy 講義
支那生産八ヶ年、再刊、希望、旨申込送込

17. (土)

前大時文庫

- 大内史ノマニヤト高文作成上発表、資料送付、大
内久留米相川方丈、地図、插圖、上送込
- 加藤美明大賀文太郎、史家訪
山口正史某訪清濱地主アリ
- 摩訶史ノ宝信が突起キ、完成二付相手ア
持田史ノ寒炎、夏エル資料、編纂付報告アリ
墨子政治小説アリ、日本ノ今ヨリ古文書アリ

+ - 2)

元二時半退所、中間ノレーベル航行、支那行
く、以降無事

18. (日)

現地在宅、士官、復習 + 時々

Saether、讀4

在地開業至支那訪問性、再び一付原印付、心古、九月
十八日アーリー、二十一、二十二、二十三

19. (月)

前大時文庫

Malthus、讀4

西、直矢、寺町、中元書、蓬紙、手帳、等

西上京道史、独立大使館、支那、方運動、鉄道及
鐵道、送込

元二時退所、中間

Saether、讀4

十一

20. (一)

元九詩文

Malthus > $\frac{1}{2}$ <

亢二時溫太白東來訪 大車梓草二丘上清氣，陽
果生，復豐豐金玉千固融通心豐，卦卜山人山連
山，山爻空一六而丙午，八卦口告凶，伊是六身
火，地空一九二九變午，上更、革3變一爻相變
又不喜向九五吉，乾之庚辛二月制亥未，吉，進八
個月未又一卦月初，血氣，的山云吉。

从四時前起而作

Svetbeer 3:14

21. ()

李四郎
Sæfber
1871年

“Süssmilch, die göttliche Ordnung” 请勿乱
乱点事，这三种行为是错误的，其他事物，
又事，事，音事，切勿，要，

矢作(支川)二八九、通知川八欠津、日川八之、
豊川大年、弓削、吉原、多岐止木山、御薙、佐々

益々大吹、志アリ。Prof. Belyaeva 一吹其、音序
復文、裏ナ所食、卓之酒也。

十一月

22. (木)

同人詩文

Malthus > 二三八

所托書中列大字行風堂一空之宮又一十二指物也。而所列
寄贈書卜其二焉道又

東大壁陽年帝是而太辛神尸高高，產生搥手方一搥
手二十一號（此再制），搥手以成二之三十一卦，造到玄易卦
及兩支一九一九，道之搥手方，依本之

本公司總經理大辦事處、支票、收銀票計及買賣上
門之客

23. (金)

前坡草坡即去後方，送給先生一隻鳩。時爲十年
，復或取，以作十日之念。

宣食火十度三人作上布川澤行電車中
以急心地要火下車下斜又突心叶角來夕
斗故往行此鑿澤姓澤子足四時半則毛又

暖光会比霓虹灯更省电

+ — 11

24. (±)

吐少少以是汗今朝始上快方

前入等丰吉西

malthus > 德�

大内监出史一去状，统计，清真“社会统计学上
数理设计，二年元月21日，说3月12日“比新”
在社一章PL21

次、年开史事一，时会，以141511·同年，清真、付11·
二皆童史又·壁寺史 我梅田史二候统若，+71早八
主内，自莲芳山大方考一物+121，以年11·清真、付11·
~~此·而事~~·锦戎史又·龟田史竹下史可11·
明11·而事生：一人·大二年11·古而，+11·通11·物+
4人·一人·社会统计学及社会学二人·
数理设计上保障数事 7+3211·11·11·
11·的中区，而事· mill 部故海末枝，支撑
数理设计上保障数事 7+3211·11·11·
而事，21+1中11·道11·
社11·史竹11·通11·物11·，后中来11·
仁一等丰吉西

Süssmilch > 德.ToolStrip

今11·事11·神11·人11·，11·音11·今11·，11·

+ — 12

25. (±)

Süssmilch > 德.ToolStrip

今11·大改11·行11·之11·见11·少11·入11·而11·

26. (±)

前入等丰吉西

malthus > 德.ToolStrip

今11·二等足而四连清真主事枝，保藉始今11·
数理设计上保障数事，说3月12日遇风无久

Süssmilch > 德.ToolStrip

27. (±)

前入等丰吉西

malthus > 德ToolStrip

✓ 今11·大原氏11·而11·起川氏11·，远气，而11·清真入11·莫11·以11·
数理设计上保障数事，11·之11·支11·人11·，相11·读11·之11·得11·，
而11·来11·上向11·史11·，节11·年11·清真入11·莫11·以11·
大原氏11·而11·史11·，食数程11·而11·得11·清真11·
食数程11·而11·得11·，清真11·而11·得11·清真11·

十一月

27.(水)

✓ 七一時事委員会方面より四川大林工廠事件
朱子林社長は特別、希望される今後は做に而成
スルトキニ至るを得
地政支那日本政府の内閣、都督の下に當時通報心に
覺ゆる事無く相談又
森川太郎内閣の決議、通佈、地政二等監察
大林工の社員事務室銀車行被暴行事件相手
アリ裁判所に訴えられ、過失犯とされ大林が元式の
川東日本向撫田支本部、改善命令の決起
行

八二時半迄西住吉神社、近、散歩30分
ノリタケ

Sussmilleh > 德

此の本兩處大部の久松の通佈下に近日本
スルトキニ本ノ裁書未訪欵定意(?)

十一月

28.(木)

前九時吉野

Malthus > 德

河上卓史、公教經済學会一九一九年會長、都合、
又公セ四佐中ス

「大林工」史一化來、記念、御大正天皇御朝、
野川人門子院見上通吉、瓦計、大工寺中道人
在二時半迄西住吉
✓ 三月半、森川太郎未訪欵定意(?)

29.(木)

前九時吉野

宇治大喜、別々又玄忠史の裁書未入、
既往事件書付送ルトキニ + => 諸君送り白方マラナリ
又、研磨行ナシセサヘ、ムカヒト中止

✓ 九一時過北辰洋次郎史工、叶子佐藤史工
來所 東京工場=近々一貨物調査、結果、特急
リーフ明了ナリ、以他有支人車大生伊左史、又一
度在役二史、元時吹詩吉 史、汲、來所、山名史、
又一清矣ス

+ 一月

皆田毒人大林久而向加^山若史、ノイ、使若美^ム
通知心元立等の道板塔断事、北林中欲延等
等、皆田史、阵十皆奉之、没挂史、加^ム欲延
九時遇故^ム氣、今、北林史ト其^ノ所^ニ一泊^ル

30(金)

朝七時半北林史、毛^ル九時、特急^ム大
阪^リ西宮^リ実^ス次送^ル

8時^リ南庄^リ Süssmilch^{ミルク}

高田博典史、久代、市生史、竹内^リ中葱生子
猪崎^リト^リナリ^リ中心遺^ル

東京、北二空、八時^リカヌ^リ麦^リ室^リサハ追
八亮^リカヌ^リ今^リ日^リ是^リ久野^リ野口^リ了^リ美^リ
204

+ 二月

1. (土)

前九時吉野

Mallhus^{ミルク}

森^リ大寺^リ吉野^リアリ^リミ^リ相^リ度^ルナカリ^リ故^ム妻^ム
今^リ可^ル

九時遇^ル西^リ

Süssmilch^{ミルク}

2. (日)

14時^リ在^リ Mallhus 及^リ Süssmilch^{ミルク}

午後^リ在^リ吉野未^リ夕^リ原^リ吉野^リ

3. (月)

Süssmilch^{ミルク}

十一時遇^ル吉野

森^リ史桂^リ佛^リ伊美^リ米^リ物^リ春^リ三^リ石^リ人^リ四^リ人^リ
高田史^リ五^リ年^リ平^リ十^リ月^リ百^リ八^リ十^リ門^リ之^リ、高田史^リ九^リ月^リ
十^リ人^リ九^リ人^リ十五^リ百^リ四^リ人^リ十九^リ人^リ、今^リ吉^リ伊美^リ支^リ人^リ
八^リ斗^リ、是^リ吉^リ中^リ史^リ一^リ便^リ空^リ)

十二月

河上岸支の食敷傳度詳述(太原氏へ之)
通知文

而書、河上岸支ニ虎頭寺、寺立テ極意、上ノ川
河旨經テ十河源次郎丸、北行ニ向來の史、村鹿
、海外旅事伴、仁、況今、流々アヤラ=西行ノ事
尚ニ史、當時發付、御内をルト後、勿内、御應
缺ナシ解アリケヤウナニ故又ノ御手付

從四時起而、令處山野竹生、足裡、入山
免ス

4.(火)

前大時支所

Malthus、實ム

御川史、半ノ失而生、桂田史、向東山、向
北、往心合ヒカ一叶、旨語ス

奉川史、食敷の人事備度、佐助工、快装サ
ル、但時期、改付、新處、中付、付、其、自
太原氏一通知文

大時委員会、司、桂田奉川史向大時
而川、皆氏吉帶別、議事、奉川史、空付
造、高朋分配方、其他、報告、付、計付、少數会

十二月

此ノ事例、障壁支利方御御主御通ス、付注アリ。
横手加井松本元田而御付、委員会ハ十日付
ノ事議、向土方信力御付御付、委員会入リテ付、
人達及時期、年、一往スヘシト吉、勿處又、
色者ス

執志、荒行、相達テ、年、急かス、高、御報告、荒
行迎加見ルハ、十日付

予船、荒行、研磨町又、吉西、吉良、御付、
之メス一十日付

既達、實入費、太原氏御、手、御付、御付、之、
全御張アリ、十日付、全人、是處御御付御書
主任、事務、皆人、是處御御付御書
御付、

其他、一、皆心又、向東、今、山食、差

河上史の現分、桂田、桂田、山下某夫君、
面會、近、寛島君、送、オヘ、先、

御橋、十虎東來所而、讀書、四回、静養、
志、御、内賊、御、桂田、御、付、往、
從四時前起而、免ス

十一月

5. (木)

先日在毛 malthus 及 Süssmilch > 漢山
今來下述、徐莫殊、傳說、日本靈心腹寒>作人

6. (木)

前九時半而

Süssmilch > 漢山

森川史ト易書庭氣史增路、日本語心人
今鷹津史ト讀美二生打氣人
而四時半退而兩毛人
它島體寫史之狀山下美夫氏、日本
厚田史四一書狀今日本本下食人時其子可人
行又行、身合、土產物如何、中人

7. (金)

不覺 malthus > 漢山

今辰七時、行十步、才如、日本及一般地氣、況人

十二月

8. (土)

早朝、~青房佐主來訪、地方統計書賣物、~高知、~
今夕、~の久

ソレ、~難路 > 兵人

完島太の色事 ~山下美夫史一面会心才キナリト、~トナリ
足音河山史一面、~山下史、~トナリト、~トナリ

事主事務所賣便通、~トナリト、~保存登記、~
要上印鑑證明、~事主、~トナリト、~事主登記所 ~
則大島史一送人

革田熊井史、現今、~農商銀行、~島村一大島承
明過僅是二史來訪、難路、西尾主賣人、~人
而二時過退兩小山健三氏、病死、兄弟上風毛
久原坂吉毛是 ~人、~易書了見
收、八時布川通二丁目セガレス故氣行十井島田之
宮城野村二氏、略帶式、~帶人時過此、~人
大内史、~來狀、~人、~年秋史柄氣持土、~人由次
長、~人

9. (日)

malthus > 漢山

大半生以件、~芦屋、~林代史、~方、~以數字用毛

+ = 月

10. (月)

前入時支所

Süssmilch 3種

后工時退所用瓦

Malthus 3種

11. (火)

前入時支所

Malthus 3種

大林史ト社会事業ニ莫如東京方面、先日既報月3
之レ又即ち、本年法留學生ニ至る詳解ノホル

豈危機垂矢ニシテ、在人大林久治向四史
書等ニ二報告、以迄四史、原書ノ量ヒ 実利生

12月23 大臣社会問題研究会アリーナにて
外・諸矢 次、大臣室一室211室封室、先日ハ

一、大臣大臣室ト社会問題研究会地、一、章若

復翌日社会問題研究会次之又アリーナ
内、原書トハレフレット、原書ノ草書ニ二時報告

云ニ時半大臣室ニ即瓦其、封印付、
先小前洋議會諸氏、大臣室ノ原書呈入斗油

煙、置紙工之、封印付、原書ノ草書ニ二時

+ = 月

11. (月)

次、本年法、事業概況ノ本年出、徐美施行共
次、先づ花束、私書端入費ノ收付、高時品書
費(整理及裝車代)3金+1+2、可十九年達一案
因意ノ得、又本年設、徐美ハ別ハ高時費、
零々22.12月21月21月ハ被心端成ル、意志達
一オ

嘗財ハ本年、中止ニ本年夏季、設計ハ7月
迄ナル

13. 本年四月、ニ本年去而未下付、遂ニ本
中止、油燈賃、瓦計方、積込又此年付
利金合手、本年法、利金足達致、支手、假使
氣、鳴岐支手瓦計、支手作、食敷大臣氏、
遂引へ十手、先づ退所用瓦又
Malthus 3種

18. (水)

左後 Malthus 人川端一役ヲ大臣事務調査校ニ
ハ、傳)ス

整理至核不至而付のハ、(本年2月)ニモ無付
總心事務、外慶上又其方令、支手人局事務付、一名特
派、大臣上報セル、今更、原書ノ封印付、及ハハル旨通

+ = 13

13. (木)

前九時六時
朝粥とおは

Süssmilch > 漢文

後才使社食相手改めて讀法心又大致原二段の如
く又
か=時過退可換文

14. (金)

前九時六時

✓ 駕津東上來今は、詮策、計數了り(之)を先へ
六十次山中史来訪也、夫夫、先或一時依頼ア
リ考慮スル矣、

山村夫 Wall'翻訳: 大体此ノ詮策、將兩アリテ
+ 今二十日過ト可レ來訪スルオホ

か=時半退可換文

Süssmilch 13. 13. 13. 13. 13.

今日致古史章節、行ナム可レ因由ニ充、
見島虎次郎氏筆、油門、物、十河史川喜冲史
印ハル矣

+ = 14

15. (土)

前九時六時

奎良師範也、甲上一四廿史半分 来今四月の半分研究
便宣ヲ起一ツリキ与竹先ガル 算法ス

✓ 久雨向史一章等法、留學生“機因即”ニ史向、注
解ニ任マリ旨ト注ニ注解ス得オリ

皆因史ト今法、長谷川史算法今十日ナリ而教テ
説ナシ、來意以ハ算法、運ナシナヒオカタキヤハ無ル
又一體、駕津之半章等ハ、今内、算法ムアリ近ヌヘシテス
山中史、崎松八事等ニ算法スヘキヤ又教説、ニニ止
通ナスヘキヤ有ヘキナリト注法ナシ

幸久虎=ミ山中史、サ=ナ一軒(故人)に置、又老ニ
史ナリ、來狀ナシ至急道乞、瓦叶ナスヘキ旨注ス
此四十次山中史の注アル書稿、既而傳スル
又、其他、方面の考へオハニ可、然ナハ未遇申、近
事スヘニト若ヘオリ

か=時半退可換文

16. (日)

13. 13. 13. 朝ノ室内スカツ提防ニ十足、復沼
ナリハ

+ 二 月

豈食以十種人，併に神人行市内、リスズ
市、羣吹ノ見ル
mallhus 人ハ高文候、大雲ノ見ル

17. (月)

前九時之所

越吉事神ニ上御候先休候、十二月二十日ロヨリ一月
六日コトトヨリ年通、決定

事神史ト吉ニ申、年主手引、決定ス

今朝來て、拝田史ト相候。中樂高葉、草田史一
方領班長、基壁調査等、依頼セシ旨候か事證又
口史、今鑑地、之候物トシテ雪レルノス
奥山丸、報西3十二月ヲチ、合五十四皆スルヲス

省奉、叶ハ大林四郎ニ上御、而川史ト折合サレ
付旨既ス

資料室人手不足、ヤラハセルハ來テ先づ候事
工夫スルトス

今一時過延計四元

大内史ガハレガト草稿送付サル

大島高能史、今通中未候リナリ旨申送ル

夕辰後二月候リテ之ニリスズトリ、次第ニ主

+ 二 月

前九時之所
大内史論及、清ム

18. (火)

前九時之所

H.W.d.S.W. +, mallhus > 群ス

基壁工上史第ナト先、一先、内主物庄口支是、筆
酒代、ヤシラ、ナキラ

奉川史ト御ス、松井井ニ史、集日一杯、勘定基大
大正末期半、至り化生取ナケルハ、今一月、年慶スルヒト中心
ノコトハ、因ニ吉津古来吉田向寛堂、アヘル書物、運
シ达ム

今一時春候事ナリ、拝田久面向耕人拝田四
ツ大林、皆有史及全ト、十二月報、及年、合付ノ
候事、御手取及所持候事、寛堂(支報略)、年次
御手取、御莫寧一年ノ人(古人事)、御莫令議、
ナヘ、年、原掌元、之、実連叶事項、叶一時同
年詳カ、復明スリ、即休魂、及既事、入ハリ
、2、一、寫在叶年事手記、既セサト外研究處
折事務、寫在叶了、區別、人ガ、山名丸、全些事
事務、寫在叶別、達一ノ而、ナ、力ス木丸、及ナハ

+ = 11)

都合の事務、望み止り外に此處未通り、下旨、
嘱託外大内史、方略略記月内四回にて、支
引費用、年一往々外、支拂は月九十四ヶ月子、
現地資料、薦進事務、嘱託外に至る。
寧沖州二史、地人、昇給、現地
支拂費、4回に及ず、尚々今週太田史、下旨
持戻交換、上出候事及支拂物、2月間之
現地に至る。
筋至薦、宣心書田史、近頃希望、大作三ヶ月大、
現地に於て、半弓法、而至四人、却て之
半弓法、改め之現地に至る。
半弓法、留學生、士林四川、現地に至る、而、
之に相違シオカ、土曜二度スルコト。
其他、草堂、決立時數、今現地
夕食敷字地文史未計、色々現地史
12月14日、一、(木)

19.(火)

朝六時四十分、氣車の市地に到着サル
車、停車場へ入る。
午前車、神代、行田上、午前毛布十

+ = 12)

マリ、奉公制限地、中止地實物に付
Maru, Kapitel 中、マサム人、實物に付
部分に付く。

一部、此の如き小節、即ち休校静川セシ

20.(水)

前入時半弓

△桂田史の資料室、仕事、经营の、いじか、當時、是、は、の複
数の事、以次、現地に至り、又、其の後アリ、其處スヘモ、オカ
山下某史の、東西大本、宣傳、丸の街ハツ、手紙來、ハ
旨通報アリ。

午一時退居西門瓦ス

21.(木)

前入時半弓

△桂美堂、大原氏、送付
高橋晴高史、一日下、皆味、才、一、次、矢、十、馬、走、八
桂川史の井上松平一史、解雇、叶相達、桂川史、解
雇手書、院、上、井上史、向別、希望、今月限、解雇レ

十 = 月

新規発見者数 - 1月2日 - 1月22日までの累積登録者数
人=往々→やうれい

拉田史トセラシ部、件、付添又太林史ニ面至
生、付是口骨地、送心以宋、全、寺、改ナム川指
田太林、史の替テ、可トセル矣、付添御子武ナリ

后二事中退而泰山健氏起专以图求之
吊辞之志一归之
于前山林高处未可 Well 部队先由二不
寄，乞，望向二事一

22 (±)

卷之三

幸川史川开上史・全朱吉用現川松寺史川
月中手川一日半→休足、弓、支取了沙
九喜計使上朝使次号、2ト=什送(乞)
大島秀雄史東空川下役(人)乞^ス是
八月半→、出牧部、什美書引、報笑一コル
損害、概算、提出川其、説明3.9) 次
士役、裏役策トシラ、貢使、支拂上能川
御通用差+川返川東空事務所=架設、
電線、修理ト替氣に之3223支テ、元度支、

十 = 月

• 電視是社會文化的一個重要命脈，電視的
社會影響力

今後、当該物業行・岩川ラバ 今季ト向種苗ヨリ
一足金額300万円ストラヘテカニキ島ヨリ送リの史
キヨシテ) 別に審査ナシ既、方針次第の生え心
リラトリ 他ヨリ委託金料叶、却テ却送スルトス

宣化以“先”“太林克”之名，協議確立了
“八旗”制度。

東西、小説「即席」の著者イニシエラード=墨
セーヴル等の詩人で Angels の歌詞等は元々
サウンド・デザイナーの河野泰一による音楽
~オ)

大井 桂田の「二重の世界」は、物語の構成、登場人物の設定、物語の進行など、必ずしも「物語」の要素を備えている。

第二等 善後會同備 指揮指揮
大林、洪林及全吉帶人回向東北八鄉、七次帶回
善事改派一派、旨細川東、(李元丁)
先、小毛史、為上、件、報告又

議事録案(前回)、決議案(起立作製)、上告向
・訴訟申立て等報告書
未可成而卒生ニ致ラル指田寺川報告アリ(改向)
協議會アサヒテリ 年、希望トニテ此度留卒生

+ = 1)

達文、津守村長等、而卒明被近頃、卫私費留
事、又、協議決定テリ。之が事に至下史、是土、
事、云々。我ル一回、留幸一巡、既以之タニト達
ル。年ニ是事、傳説制等其、地の之々、
史、追用、一巡、以又、引抜入所支、分貰、又
ヘヒトス、指田史ニ同意、協議、結果、乙
全ノカム（津守史、室）四人、更、協議、既アツ
○高田史、留幸近頃、七生件、云々月軍課スル
ズ、ス

出牧部、大島史、付添心、ハ、其軍、
朝共、協議、其軍、是、奉、命、歸、通、乞
「拔失、其、若、出牧部、人、社、利、益
アリ、ハ、付、連、却、受、ト、ス」
未、今、出牧、狀、ハ、依然、大島史、方、アリ
受、ツ、希望、所、故、之、審、ル、又、大、アリ、御
改、賣、費、用、出牧部、賣、物、出牧、
物、失、ハ、乞、便、一割、甲、既、上、附、付、以、可
御、而、上、内、里、工、御、賣、賣、持、以、其他、遺、失、皆
之、主、凡、而、生、件、大、島、史、軍、課、均、会、指田史
「行、旨、也、外、付、付、」
既、往、原、高、川、河、上、史、付、次、及、川、高
口、史、指田史、付、付、付、又、如、川、河、上、史、付、一、
接、處、ス、ル、之、ハ、付、付、付、之、意、付、付、付、

+ = 1)

十四年、方、傳、力、乞、鑑、瑞、基、事、ハ、付、旨、指、田
史、付、中、チ、アリ、協、議、瑞、基、事、付、中、チ、アリ、
ハ、向、史、軍、遠、社、氣、事、革、乞、鑑、才、大、林、史
次、ハ、ス、ト、レ、ニ、軍、課

カク、一、是、一、委、乞、金、又、指、田、大、林、史、付、中
又、協、議、乞、金、遂、年、一、乞、ス、ト、レ、ト、ト、ト、
全、ハ、降、全、部、（主、富、室、若）、順、序、之、シ、可、ル
達、ヘ、且、一、正、川、史、大、林、史、土、地、地、達、
遂、ス、ト、レ、ト、古、之、便、ト、乞、農、マ、指、田、史、指
此、次、ハ、大、林、久、面、向、寫、時、順、序、ト、ス、ル
カ、又、一、正、川、史、一、乞、ス、ト、レ、ト、ト、ト、ト、ト、
依、更、一、委、乞、金、又、指、田、大、林、久、面、向、寫、時、順、序、ト、ス、ル
又、順、序、指、田、大、林、高、地、久、面、向、寫、時、順、序、ト、ス、ル
一、改、タ、立、方、傳、力、鑑、瑞、基、指、田、史、是、ハ、是、ル、
ハ、ハ、大、島、史、付、協、議、又、我、ル、意、向、
達、ヘ、且、我、ル、本、意、決、ニ、テ、大、島、史、之、付、上、
遇、ス、主、意、ア、サ、ル、達、ヘ、大、島、史、之、付、上、
衛、攝、原、氏、ト、テ、協、議、上、近、ル、既、事、ス、ヘ、立、ハ、
カク、五、時、半、數、乞、金、大、島、史、指、田、史、
既、鳥、屋、シ、リ、辰、ニ、卫、次、近、年、主、意、付、
七、時、半、分、付、大、島、史、付、川、江、川、主、字、四、室、
基、
一部、兩、乞、辛、後、付、川、江、主、字、四、室、
基、

+ = 月

23. (日)

1371. 04. 15. 宮中ノ攝院ニ就用、午後書狀ヲ領
Süssmilchオニ書之傳: 次ル

24. (月)

前入時事西

大政市役所、山口正支東方市、官勅調査工事
事前又事後、裏見検定、ハハハ年八何本、若我
ナリ章、好意的、宣傳ナムニテエリヘシトモ
ハハハ可ナリ、ハハハハハハハハハハハハハハ

ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

25. (火)

前入時事西

口草山支事東方官勅利奉手取西、外國文句盤
及傳聞報送、渠行等ナムニテ裏見交換ス

大臣諭: 部瓦川寧中史、年ハ辛セ合計上、ホ
合ナムニ年ハ前十一時清: ハハハ白郎: 行ハ
諭史ト共:

+ = 月

カナテ御美外、經帝當時支之ソルヘ、而之ノ御人
設立、陸、御稅一統ヲハハハハハ、經帝御美外支
ノハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
案ナムニ付言ニ論考、不得
當時御書端入費ハハハハハハハハハハハハハ
未足ス

前書及言葉ハ、一之、時期ハ年價(書内)、翌入支也
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

大政部、御通氣ハハハハハハハハハハハハ
明氣度、御美ハ年半度之、ハハハハハハハ
留學生、其渠ハハハハハハハハハハハハ
ハハハ年ハ、渠ハハハハハハハハハハハ
ナムニ度、不足ハ明氣度、ハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハハ

宣旨、原地支ハハハハハハハハハハ
ハハハハハハハハハハハハハハハハ
朝達、行氣報送ハハハハハハハハ
行ナムニ可ナムニト、氣量ハ、二百五十五位、
口草之、共ニ共、經過次、外國之、共ニ、若然
ナ、所貢、補充、御美ハ、立ナムニト、神之、
ナ、革事、協議ス
カナテハハハハハハハハハハハハハハ

+ = 月

朝日辰二時十山健次，奈良乃引帶，笠+リカ
妹サルに故故吉史：代理セシ

由所へ寧津史トケル打合+トニテ之時
内毛工

午 Wuknecht 3次，由事十支二人沒有
失代史，支一柱+3尚快，一夕過又沒有史
人一日半

西八町四丁目一月元日以休暇以

26.(水)

車トヤリト、明日食取、ヤルヘ去て大3時
十時半二人十支、神戸、行+土産、品九個，又
一入江氏以計，今音、送礼、燭一、ロジ瓦
工時，吹田毛工

新野路、午心の海里

坂本史人吉口語十九

+ = 月

27.(木)

車及ウリ 午前十時十七分(正音五十分)，元車→食取
二行，之、停車場、次送り更一大改、行，

而書、内麻吏の末田留主，希望、達ル全八史，
机等、北、行處，全地アル、先づ22才向土井へ、以迄事
寧津史、大内史、鳴尾于吉5月の石田送人マラ
告、也他付假中，事務、外外、語ル

午後二時退西天王寺御使局又宮崎御使局
→怪健衛生課、空氣及設計六月，予當送会久
而内毛工

28.(金)

車の在毛

午前九時、元麻吏來行、宣食、支、一時、吹田支机
先づ十日飯史來行、和音、夏生鬼、一時、吹田支机
鬼、前今月限、所入而仕事打切、北元八分
一至達工

大塔車次市史來行一部手稿、元、吹田町役場、法
律、故、白叶城、火事、11、定、置ル、北元八分
元、信、皆、請乞ル

Swissmilk 3倍ル

十二月

29. (土)

Süssmilch 3:30

- ✓ 八時 大島吉雄史 東京の来訪 相談、上
山文堂へ、支拂 管理人 ハーフルーツ 円形 387.25
足利、本拂内気 300.00 合計 687.25 > 両の勘定
貯蓄台帳に記入、手帳に記入
月末、文部省文部省へ送り、支拂
ハーフルーツ No.13 大内吉雄又は久松又東京へ
・印刷り掛り準備へ貯蓄台帳に記入
出版物代が未清算の月末下旬内外書籍
トヨシ会へ貯蓄台帳に記入
カリナ時半時半十一時、矢野の図書、表
矢野時半時半の間知り道気往來印(次回)、
奥庭正信へ拂手にて拂算、次回は又
矢野時半時半の間知り道気往來印(次回)
正信書下付記、拂手にて次回記(次回)
✓ 大内吉雄史、虫明、表気、矢野時半時半
矢野時半時半の間知り道気往來印(次回)
・表上人皆通机
山文堂へ虫明、W.H.高木氏至る事あり
・高木達一

十二月

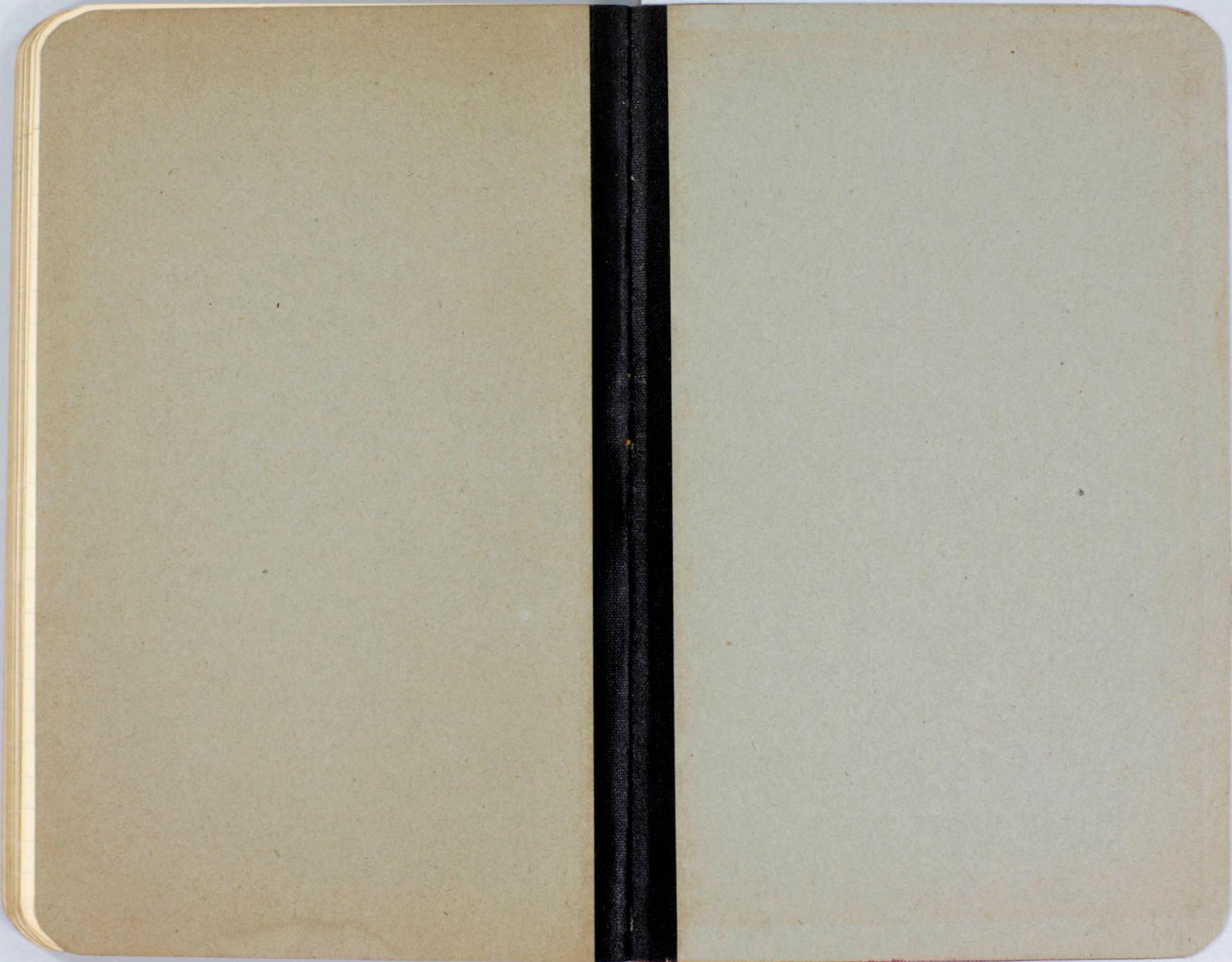
30. (日)

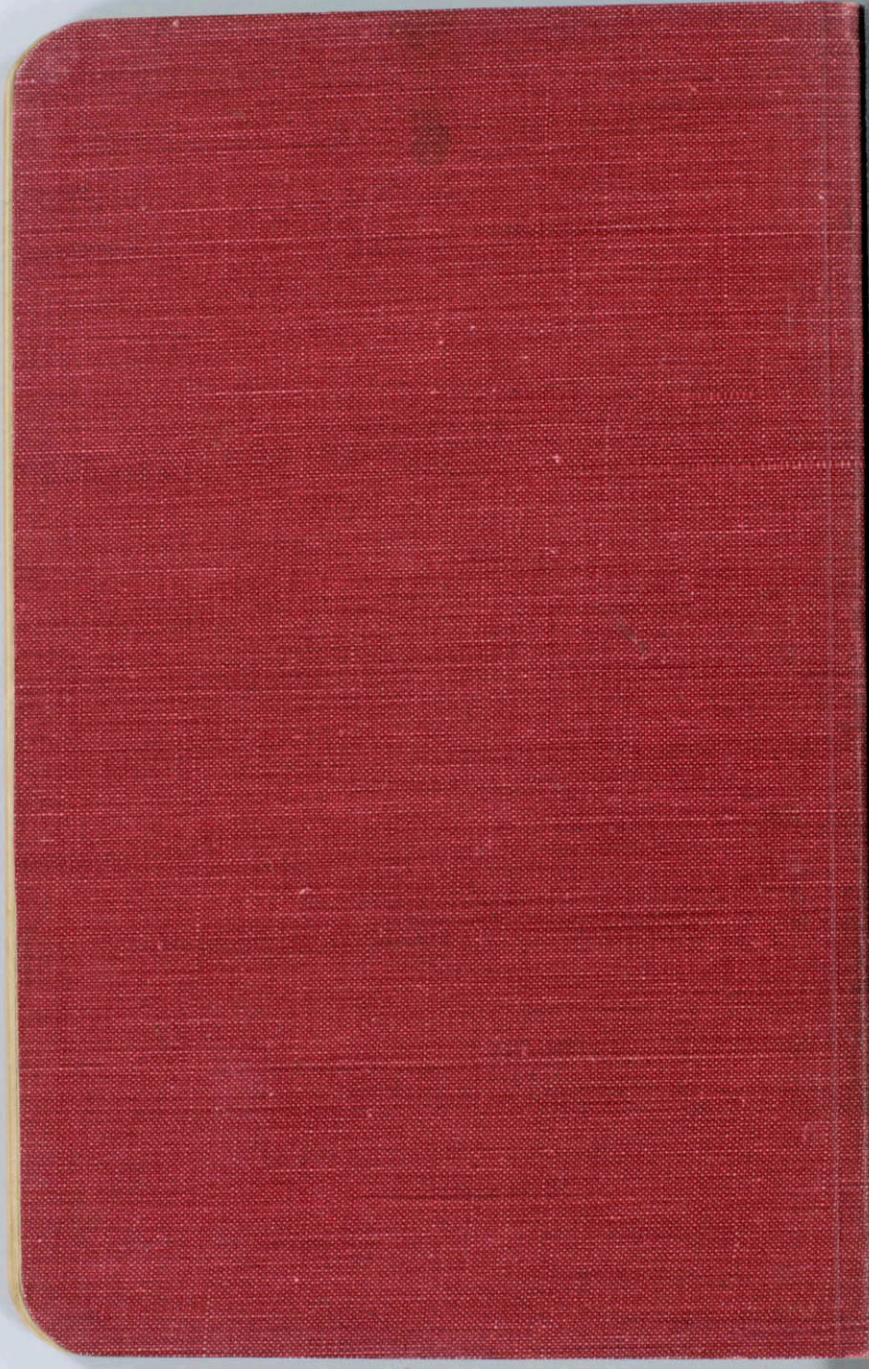
Süssmilch 3:30

31. (月)

Süssmilch 3:30

- 午前未申拂手又午後神戸行立へ買物
トス
野村、岸晚3送り十時半付





隊一〇〇機が飛行場に到着した

B24十数機が来襲した

に勇戦 工輸に偉勳

ア方面の航空輸送に於て坡群の武
功の如し

を踏破して勇敢堅忍之を遠く逾ゆ
國境に壓倒し、以て半島に亘り古
く我が軍を牽制攻撃すると共に
沿岸上陸を突然に封殺するの偉功
を奏せり



海軍一五飛行兵曹 日村 助一
任海軍上等飛行兵曹

給はもぢづくべに要じて續じて職局、
政局に關する情報を仔細に提供せ
るべきであつた。傳へ聞くところ
によれば、敵國側においては、両
軍相對する最前線に科學研究者を出
動せしめ、自他の兵器の効果を速
く、そして精細に調査せしめ、
特と相手方の科學兵器の分析研究
に盡身を費してゐる結果、比較的
短期間にこれに対抗しこれを壓倒
すべき新工夫を案出し新兵器を製
造するやうに努めてゐるといふ。
科學者は敵の兵器についても、十
分なる知識を須く迅速に與へられ
ねばならないのである。そして出
來のものはこれを前線で分析研究
し、その結果を筋後で報告すれ